

### 電材向け化学品

# 本社に試作プラント

## 来秋稼働、まずケイ素系

航空機向け炭素繊維複合材料(CFRP)用のエポキシ樹脂製造を本格化するスーパーエシニアリングプラスチック用原料ジヒドロキシジフェニルスルホン(DHDP)の有力メーカー、小西化学工業(和歌山市、小西弘矩社長)は、研究開発型プラントを本社事業所内に新設

### 小西化学

する。パイロットスケール(10〜数百キログラム)の設備になる見通しで、新事業創出の牽引車と期待される電子材料向けの化学品の試作を担う。同社は「少量の営業生産にも対応したい」としており、来秋に稼働させる方向で関係先と最終調整に入っている。

医療薬中間体などの開発に欠かせない特殊なスルホン化反応技術を保有する同社は、電材に関するプロトン・エレクトロン伝導性などスルホン酸基の機能を活用し、新規の高分子開発に本腰を入れている。また文部科学省の産官学連携事業で開発した有機・無機ハイ

ブリッドポリマーも液晶画面のハードコート材の素材などとして注目されており、既存のパイロットプラントではサンブル出荷の需要に対応できな

くなりつつある。新棟は、事業所入り口右側の遊休スペースに建設予定で鉄骨4階建て、建築総面積は2000平方

メートル、1期投資分の工費は7億円。その後の追加投資を含める工費は10億円以上となる見込み。10月に着工し、来年8月にはケイ素系専用設備を1ライン立ち上げ、有機系専用ラインを順次2ライン増設して容量1000〜2000キログラムの反応釜を合計8基導入する計画だ。

本社事業所内の現在の試作設備の製造能力はベシオンスケール(数〜数十キログラム)レベルで反応釜は8基(容量50〜2000リットル)体制。今回の投資で懸案となっている電材向けの試作量を大幅に増やす方針だ。小西社長は「研究開発部門のある和歌山を開発・試作拠点として整備し、B787向けのエポキシ樹脂を製造する福井工場(福井県坂井市)は、新規の開発品の量産拠点として投資を続けていく。航空機関連とともに、電子材料分野の市場の掘り起こしは経営戦略の重要テーマ。有機EL(エレクトロルミネッセンス)向けなどのインパクトのある化学品を積極的に投入していきたい」と話している。